

VCM 投与設計改訂における腎機能障害発現について

1. 研究の対象

2021年9月～2023年7月に当院でバンコマイシン(VCM)を投与された方

2. 研究目的・方法

VCM は薬物血中濃度モニタリング (TDM)の対象薬剤となっています。2022年に抗菌薬 TDM 臨床実践ガイドラインが大幅改定され、従来のトラフ値による投与設計 (trough-based dosing) から、より質の高い医療を提供できる area under the concentration (AUC)-based dosing へ移行しました。当院でも、トラフ値を用いた TDM (TDM SHIONOGI-VCM-TDM S-edition Ver. 2014 for Windows® (S-edition)) から AUC を用いた TDM (PAT ver 2.1®)へ変更しています。そこで、トラフ値による投与設計と AUC による投与設計において当院での腎機能障害発現について、VCM 投与前後における血清クレアチニン値の差から比較検討を行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：VCM を投与された方の血清クレアチニン値、年齢、性別

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんの不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都中部総合医療センター 患者相談係

京都中部総合医療センター 薬剤部 薬剤師 米山 真穂

研究責任者：

京都中部総合医療センター 薬剤部 薬剤師 米山 真穂

以上